

「からだの境界線」

あなたのからだはあなたのもの
だれと、どれくらい距離をとるかはあなたが決められる

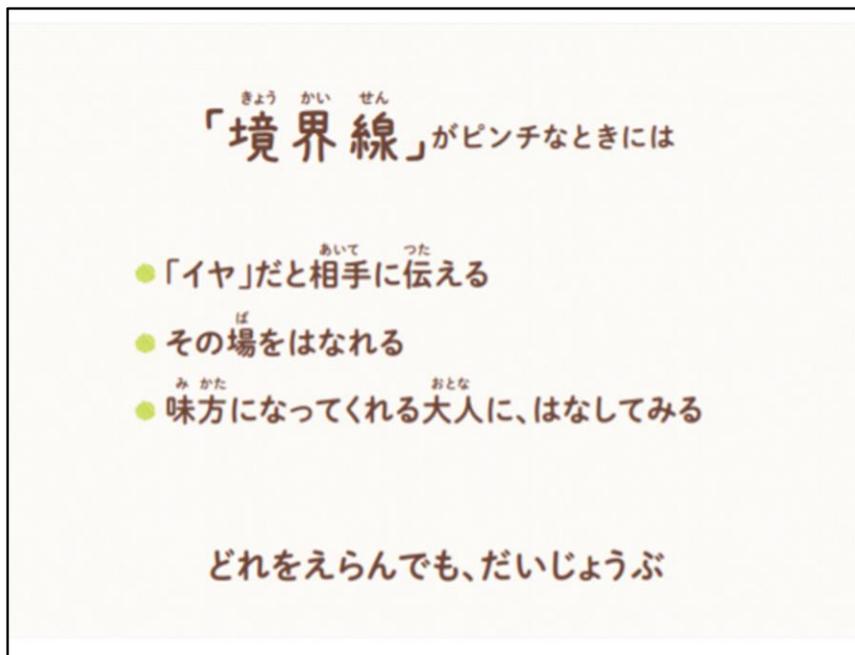


【ポイント】

まずはイメージしやすい物理的な境界線である「からだの境界線」を学ぶ。

【留意点】

マイナスな表現だけでなく、それが権利だとわかるようにプラスの表現を用いる。



【ポイント】

境界線がピンチ（危機）な時の対処法を伝える。
いくつかの対処法のなかから、自分が使いやすい方法を選べることを知る。

【留意点】

「イヤ」という選択肢はあるが、関係性や状況によりできない場合もあるため、アドバイザーは選択肢の一つとして選べるよう伝えていく。
境界線を勝手にこえられたとき、勝手にこえた人にその責任があり、被害者がイヤと言えなかったからといって責められてはならないことを、アドバイザーは理解しておく必要がある。